

第2回燃料アンモニア国際会議 議事総括

2022年9月30日

1. 2022年9月28日、経済産業省及び一般社団法人クリーン燃料アンモニア協会（CFAA）主催の下、第2回燃料アンモニア国際会議がオンラインで開催された。
2. 本国際会議には多くの方々が興味を持ち、1,500名を超える登録があった。政府・国際機関としては3か国と国際エネルギー機関（IEA）、一般財団法人日本エネルギー経済研究所（IEEJ）の2機関からの登壇があり、産業セッションでは9か国から合計17件の発表が行われた。またこの会議の場で、米国テキサス州ポートオブコーパスクリスティと三菱商事株式会社の間でコーパスクリスティに於ける低炭素アンモニア製造開発に関わる覚書のサイニングが行われた。
3. 先ず全体を通じてみると、脱炭素化に向けた燃料アンモニアの活用に対する関心が世界的に高まっており、マレーシア、インドネシア、インドといった石炭火力発電の比率が高いアジアの国々において重要な取組となることが示されたことや、国際的な官民の連携を通じ、燃料アンモニアのサプライチェーン構築が進展していることが具体的に示されるとともに、生産国と消費国の連携が極めて重要であることが共有された。
4. IEAは、今後、脱炭素化が進展する中で、低炭素で出力調整が可能な電源が不可欠であると強調したほか、燃料アンモニアの国際的な取引市場の形成に向けた議論が進むことへの期待を述べた。
5. 産業セッションでは、利用から遡って、輸送、供給、生産までのバリューチェーンに関しての興味深い取組が紹介された。
6. 利用技術に関しては、発電での利用技術が大きく進展しており、日本政府の支援の下で、最終的には100%アンモニア火力を可能とするための発電の技術開発を目指していく方向である。こうした中、発電事業者はクリーン燃料アンモニアの供給とその発電技術を駆使してカーボンニュートラルを目指そうとしている。
7. 海上輸送に関しては、アンモニアディーゼルエンジンの開発が2020年台中頃までに完成し、外航船舶におけるゼロエミッション燃料としてのアンモニア活用がグローバルに展開される方向性が示された。

8. 供給、生産に関しては、米国、豪州、サウジアラビア、ノルウェーにおけるブルーアンモニアとグリーンアンモニアの供給プロジェクトの紹介があり、CO₂削減率を向上させたブルーアンモニア生産設備の大型化の検討や、多くの地域でブルーアンモニアとグリーンアンモニアの生産プロジェクトの準備が進んでいることが報告され、サプライチェーン実現に向けた動きが進んでいる。
9. 日本ではJOGMEC、JBICなど国の機関によるサプライチェーンへの参画やファイナンスによるサポートの検討も進められている。
10. クリーン燃料アンモニア協会からクリーン燃料アンモニアの定義案を示した。本定義は今後の国際的議論が必要である。
11. 本会議では、クリーン燃料アンモニアに関する最新の状況を参加者と共有することができ、非常に有意義な会議であった。来年は、さらに進んだ姿を参加者と共有できることを期待している。

(了)